

## ビワキジラミ防除のための 総合技術マニュアル (改訂版)

農研機構を中心とした研究グループは、ビワに大きな被害をもたらすビワキジラミを効果的に防除するための総合技術マニュアルの改訂版を作成・公開したので紹介します。改訂版では新規登録・適応拡大された農薬3種類の情報を追加し、ビワキジラミ対策に最適化された防除暦(標準的な防除の年間スケジュール)を更新しました。秋季(開花初期)、春季(袋かけ前)、夏季(収穫後)の年3回の防除を柱とした被害低減技術を分かりやすく紹介しており、生産・防除指導に役立つことが期待されます。

### ☆ 技術の概要

1. ビワキジラミ(写真1)は、2012年5月に四国の一部地域で初めて発生が確認されたビワの新しい害虫です。幼虫・成虫ともにビワの樹液を吸い、これを濃縮した排泄物(甘露と呼ぶ)を多量に排出します。甘露が付着した葉や果実には黒カビが発生して「すす病」を引き起こします(写真2)。既往のビワ害虫防除技術では被害を抑えることができず、その後の数年間のうちに多発生と急速な分布拡大を許しました。
2. そこで農研機構は分布拡大の抑制と防除技術の確立に着手し、関係県の研究・普及機関、生産者団体、大学と協力して、ビワキジラミの生態解明とモニタリング、識別、防除技術の開発を進め、「ビワキジラミ防除のための総合技術マニュアル」として取りまとめ、2020年3月に初版を公開しました。
3. さらに、ビワキジラミに対する農薬の新規登録・適用拡大により、ビワキジラミの年3回の防除適期全てで登録薬剤(表1)による防除が可能になったことを受け、内容を更新したマニュアル改訂版を2020年11月に公開しました。本マニュアルに従って確実に防除を実施することで、ビワキジラミの発生地でも安心してビワ生産を行うことが可能です(図1)。



写真1 ビワキジラミの成虫



写真2 袋かけた果実の被害

表1 ビワキジラミに適用のある登録農薬(2020年8月末現在)

農薬の種類	商品名	希釈倍数	使用方法	使用時期	使用回数
トラロメトリン水和剤	スカウトフロアブル	2,000倍	散布	収穫3日前まで	3回以内
ジノテフラン水溶剤	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	散布	収穫前日まで	あわせて2回以内
	アルバリン顆粒水溶剤				
ジノテフラン液剤	オールスタースプレー	原液	散布	収穫前日まで	
アセタミプリド水溶剤	モスビラン顆粒水溶剤	2,000倍	散布	収穫前日まで	3回以内
ピリダベン水和剤	サンマイト水和剤	3,000倍	散布	収穫3日前まで	2回以内
DMTP乳剤	スプラサイド乳剤40	1,500倍	散布	開花期まで	2回以内

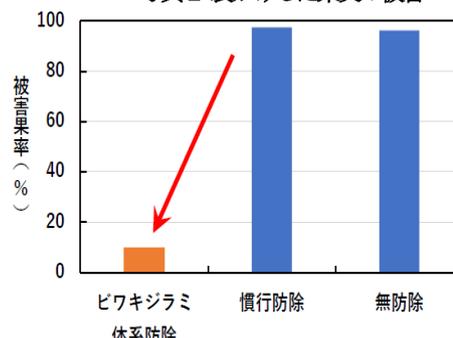


図1 ビワキジラミ体系防除(対応防除暦)と慣行防除(ビワキジラミ非対応)、無防除の被害果率

### ☆ 活用面での留意点

1. 本資料は生研支援センター・イノベーション創出強化研究推進事業「四国で増やさない! 四国から出さない! 新害虫ビワキジラミの防除対策の確立」の成果をもとに作成しました。詳細は、農研機構問い合わせフォーム (<https://www.naro.affrc.go.jp/inquiry/index.html>) にお問い合わせください。
2. 本マニュアルは以下のページから無料でダウンロードができます。  
[https://www.naro.affrc.go.jp/publicity\\_report/publication/pamphlet/tech\\_pamph/134358.html](https://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech_pamph/134358.html)